Panasonic®

施工説明書

水平設置用連続手すり らくレール
品番：MFB11□

※この商品は一般住宅およびそれに準じる居住施設の屋内専用です。他の用途へのご使用はおやめください。
屋外および浴室内部など頻繁に水分と接するところには使用しないでください。

■施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
■取扱説明書は必ずお客様にお渡しください。
（施工完了後、使いかたを説明してください。）
■梱包材や残材は、法律に従って適切に処理してください。

■手すりの設置場所について

●手すりの取り付け高さは床の位置から700～800mmが一般的です。
（使用される方の使いやすい位置に設置してください。）

●廊下に手すりを取り付ける場合は、廊下の幅寸法を厳守してください。

廊下の用途		廊下の幅	
		両側に居室がある廊下における場合	その他の廊下における場合
非住宅	小学校、中学校、高等学校又は中等教育学校における児童用又は生徒用のもの	2300mm以上	1800mm以上
	病院における患者用のもの、共同住宅の住戸若しくは住室の床面積の合計が100m²をこえる階における共用のもの又は3室以下の専用のものを除き居室の床面積の合計が200m²（地階にあっては、100m²）をこえる階におけるもの	1600mm以上	1200mm以上

「建築基準法施行令 第119条」で定められています。

安全上のご注意 必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った施工をしたときに生じる危害や損害の程度を説明しています。

⚠警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

⃠	してはいけない内容です。	❗	実行しなければならない内容です。

⚠警告

禁止

施工時に商品仕様を変えるような加工をしない
品質保証責任を負いかねます。仕様を変えると、けがをするおそれがあります。

手すりはスロープや階段などの傾斜部分に設置しない
水平に設置しないと、手すりを正しく施工できません。品質保証責任を負いかねます。

禁止

湿気の多い場所や直射日光の当たる場所に保管や放置しない
くされや材割れなどにより手すりや部品が外れ、けがをするおそれがあります。

屋外や浴室など、水がかかる場所や湿気が多い場所に設置しない
くされや材割れなどにより手すりや部品が外れ、けがをするおそれがあります。

柱や下地の強度が不十分な場合は施工しない
手すりの外れ、転落・転倒事故の原因となります。ねじを打ち込み、下地がしっかりしていることを確認してください。
（柔らかい木材や腐れ、虫食いなどがないこと）

⚠警告

必ず守る

必ず専用のねじで施工する
手すりの落下などによりけがをするおそれがあります。

手すり固定ねじの取付間隔は500mm以内にする
手すり本体が破損したり、転落・転倒事故の原因となります。

必ず専用治具を使用し、下穴をあける
手すり本体が破損したり、転落・転倒事故の原因となります。

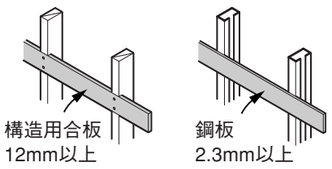
部材の固定は材割れ防止のため必ず下穴をあけ、同梱しているねじを使用し確実に締め込む
ねじの突出によるけがや、保持力不足による手すりの外れ、転落・転倒事故の原因となります。

手すりの運搬・取り付け時は必ず2人作業で行う
手すりの落下などによりけがをするおそれがあります。

必ず守る

手すりの固定位置には必ず柱または下地材があることを確認する
下地材がない場合は、下地材を柱の所定の位置に取り付ける（下図参照）
手すりの外れ、転落・転倒事故の原因となります。

〈木軸の場合〉 〈LGSの場合〉



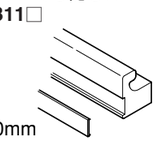
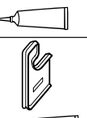
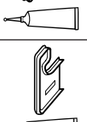
※上記の下地以外（RC造など）には取り付けできません。

施工中に手すりを傷つけて、化粧シートが破れたり、めくれたりした場合は使用を中止し、すみやかに補修依頼を行う
そのまま使用すると手を切ったり、けがをするおそれがあります。

施工前の確認

■部材・部品の確認

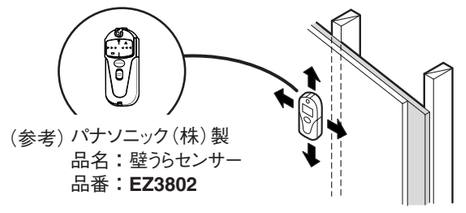
●商品に梱包されている部品は下記の通りです。
梱包の内容をご確認ください。
●開梱したら、部材に損傷がないかご確認ください。
躯体への取り付け後の損傷クレームについては責任を負いかねます。

部材・部品名	入り数	部品名	入り数
手すり・ねじ隠しカバー **MFB11□**  3950mm	各1	エンドキャップ・専用ねじ **MFB21□** なべ φ3.5×12 ※専用接着剤同梱	キャップ 左右各1 ねじ 6
〈木軸用〉 治具・専用ねじ **MFB01** コーススレッド φ4.2 ×100	治具 1 ねじ 30	接続キャップ **MFB51□** ※専用接着剤同梱	1
〈LGS用〉 治具・専用ねじ **MFB02** シンワッシャー φ5 ×110	治具 1 ねじ 30	入隅キャップ **MFB41□**  ※専用接着剤同梱	1
		出隅キャップ **MFB42□**  ※専用接着剤同梱	1

■下地材の確認

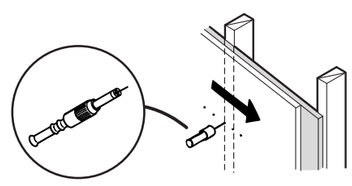
下地センサーや下地探し器などで下地材を探す。

〈下地センサーで探す場合〉



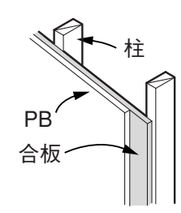
（参考）パナソニック（株）製
品名：壁うらセンサー
品番：**EZ3802**

〈下地探し器で探す場合〉



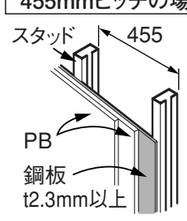
■下地構成 ※下記の下地以外（RC造など）には取り付けできません。

〈木軸〉
主に戸建ての場合

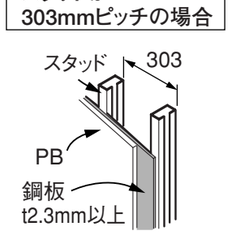


〈LGS〉主に非住宅の場合

スタッドが455mmピッチの場合



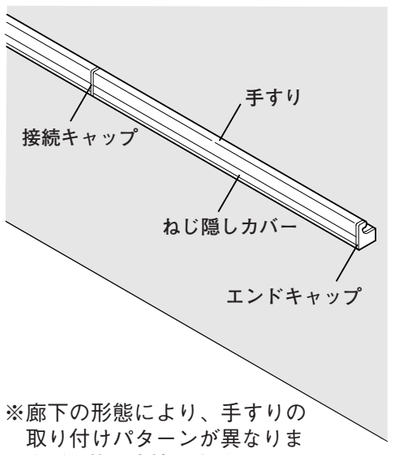
スタッドが303mmピッチの場合



施工のしかた Ⓐ ストレートに取り付ける場合

〔寸法単位：mm〕

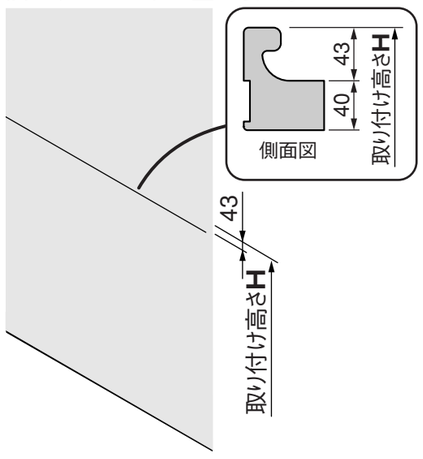
■施工概要（廊下姿図）



※廊下の形態により、手すりの取り付けパターンが異なりますが、施工方法は上記パターンと共通です。

1 墨出し

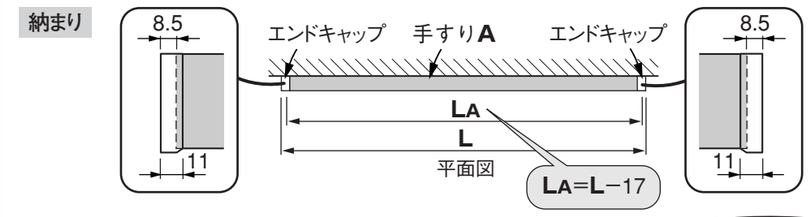
取り付け高さ**H**（推奨700～800mm）を決め、43mm下に墨を引く。



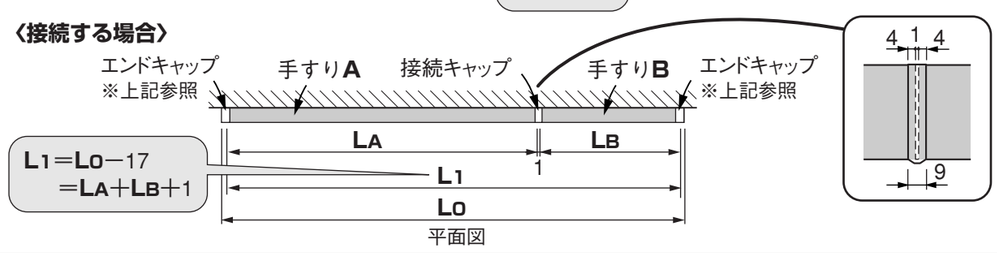
2 手すりの切断

1 手すりからねじ隠しカバーを外す。
2 プランに合わせて手すりの長さ（任意）を決め、手すりをカットする。

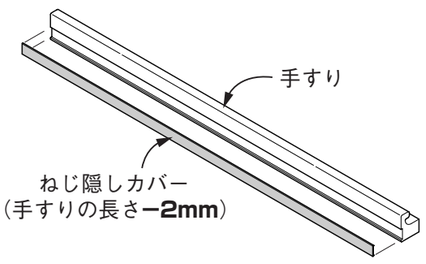
納まり



〈接続する場合〉



3 手すりの長さ**−2mm**でねじ隠しカバーをカットする。



3 下穴をあける

1 取り付けねじ位置を決める。

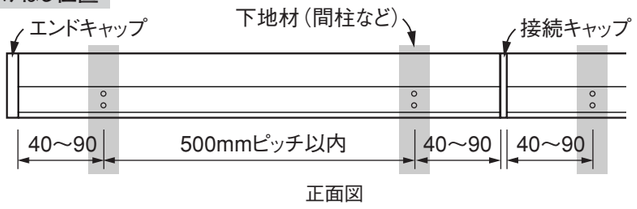
注意 **ねじ位置は、必ず下地材の位置と合わせてください。**
確実にねじを取り付けないと、手すりの外れや落下のおそれがあります。

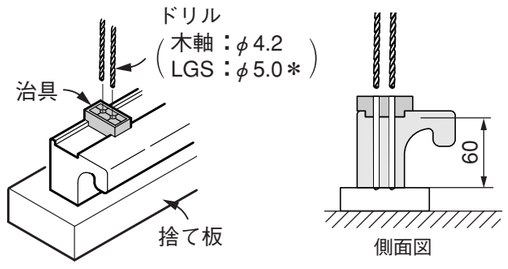
2 手すりを床面に置き、取り付けねじ位置に付属の治具を合わせ、下穴（貫通）をあける。

注意 **●付属の治具をしっかり押さえて使用してください。**
しっかり押えないと上下2か所の下穴を垂直にあけられないおそれがあります。

●必ず手すりの下に捨て板を置いてください。
床を傷つけるおそれがあります。

取り付けねじ位置



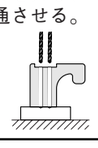


＊LGSの場合、治具穴（φ4.2）をドリルでφ5に広げてください。

ドリルの長さが足りない場合

①ドリルが届くところまで治具を使用し、下穴をあける。

②治具を外し、下穴を貫通させる。



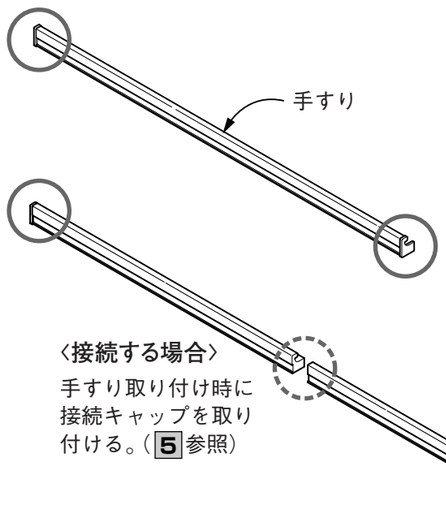
⚠警告

必ず守る

必ず専用治具を使用し、下穴をあける
手すり本体が破損したり、転落・転倒事故の原因となります。

4 エンドキャップの取り付け

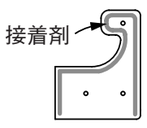
取り付け位置

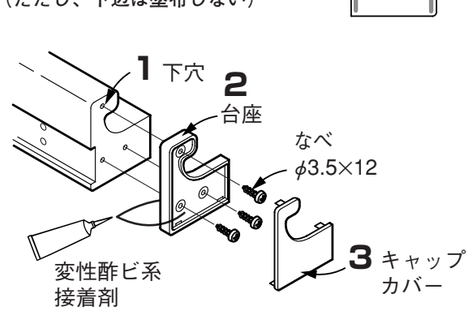


〈接続する場合〉
手すり取り付け時に接続キャップを取り付ける。（5 参照）

1 台座のねじ位置に合わせ、手すりの木口に下穴（φ2.5×深さ12mm）をあける。
2 台座に専用の変性酢ビ系接着剤を塗布し、ねじで取り付ける。
3 台座に専用の変性酢ビ系接着剤を塗布し、キャップカバーを取り付ける。

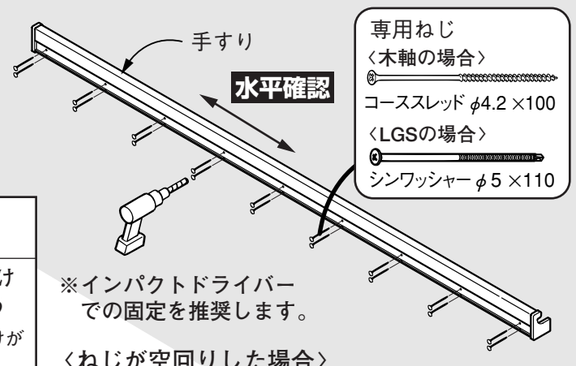
※接着剤は台座の外形に合わせて塗布してください。
（ただし、下辺は塗布しない）





5 手すりの取り付け

レベル出しをしながら、壁面にねじで固定する。



※インパクトドライバーでの固定を推奨します。

〈ねじが空回りした場合〉
下地のある位置に、新たに下穴をあけ直して固定をしてください。
（空回りをした穴を再使用しないでください。）

⚠警告

必ず守る

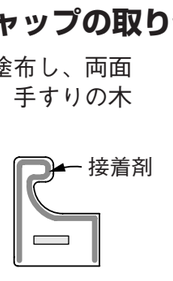
手すりの運搬・取り付け時は必ず2人作業で行う
手すりの落下などによりけがをするおそれがあります。

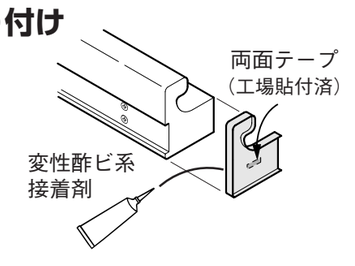
必ず専用のねじで施工する
手すりの落下などによりけがをするおそれがあります。

〈接続する場合〉接続キャップの取り付け

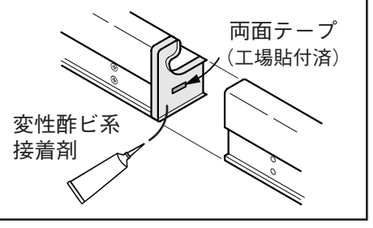
1 専用の変性酢ビ系接着剤を塗布し、両面テープの離型紙をはがして、手すりの木口に貼る。

※接着剤はキャップの外形に合わせて塗布してください。
（ただし、下辺は塗布しない）



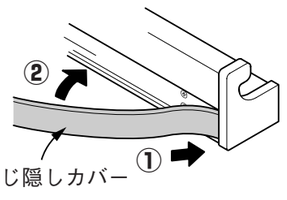


2 1と同様、専用の変性酢ビ系接着剤を塗布し、両面テープの離型紙をはがして、手すりを接続する。

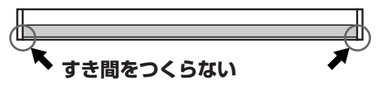


6 ねじ隠しカバーの取り付け

手すりの溝部に取り付ける。



※すき間ができないよう、左右均等に取り付けてください。
温度変化によりカバーが伸縮する場合があります。



※「ねじ隠しカバーの外しかた」は裏面 6 参照。

施工のしかた　Ⓑ コーナー（入隅・出隅）がある場合

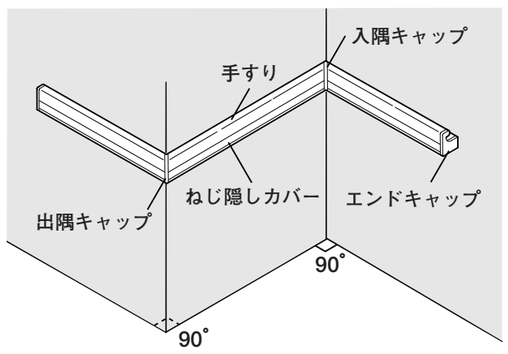
〔寸法単位：mm〕

■施工概要（廊下姿図）

注意 **入隅・出隅は90度以外の接続はできません。**

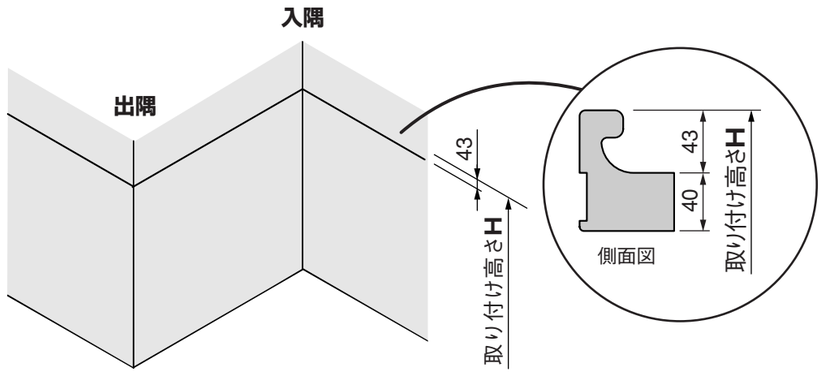
※廊下の形態により、手すりの取り付けパターンが異なりますが、施工方法は右記パターンと共通です。

※手すりを接続する場合は表面 5 参照。



1 墨出し

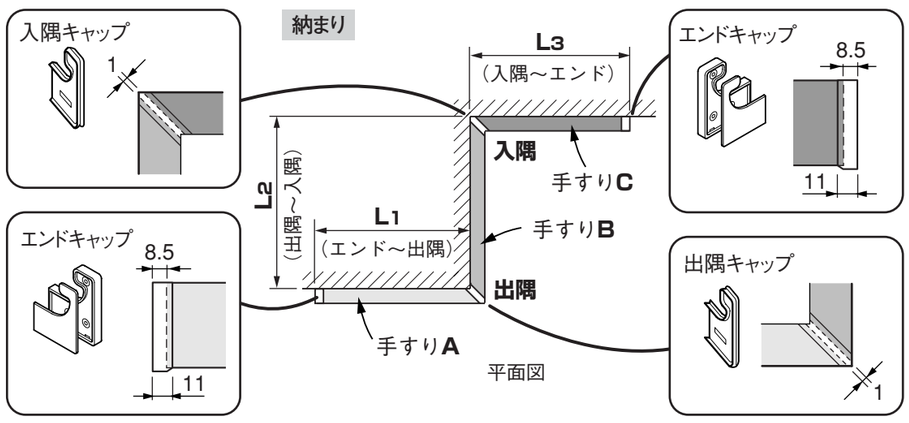
取り付け高さ**H**（推奨700～800mm）を決め、43mm下に墨を引く。



2 手すりの切断

1 手すりからねじ隠しカバーを外す。

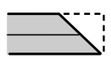
2 ①右図を参考にプランに合わせて、**L1**、**L2**、**L3**の長さを計測する。



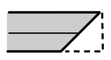
②右表を参考に手すりをカットする。

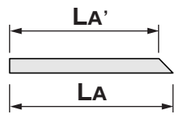
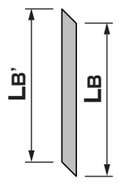
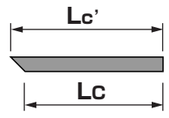
※出隅・入隅部は45°に切り欠く。

出隅

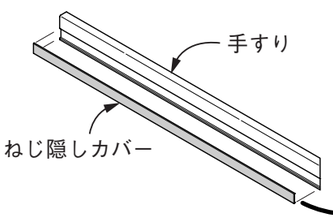


入隅



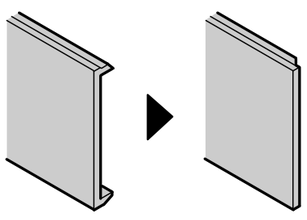
	手すりA（エンド～出隅）	手すりB（出隅～入隅）	手すりC（入隅～エンド）
手すり取付壁面寸法	L1	L2	L3
手すり長さ切断寸法	 LA'＝L1－10mm LA ＝L1＋55mm	 LB'＝LB＝L2－2mm	 LC'＝L3－10mm LC ＝L3－75mm

3 手すり長さ切断寸法（**LA**、**LB**、**LC**）**－2mm**でねじ隠しカバーをカットする。



出隅・入隅部

断面を斜めにカットする。

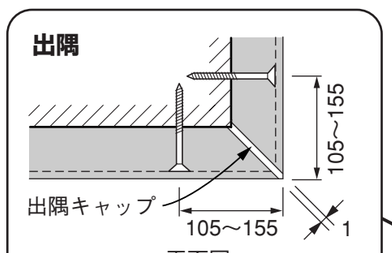


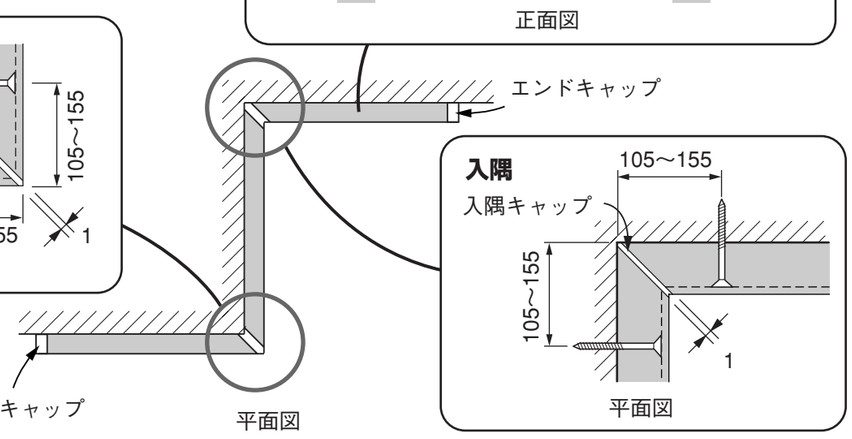
3 下穴をあける

1 取り付けねじ位置を決める。

注意 **ねじ位置は、必ず下地材の位置と合わせてください。**

確実にねじを取付けないと、手すりの外れや落下のおそれがあります。

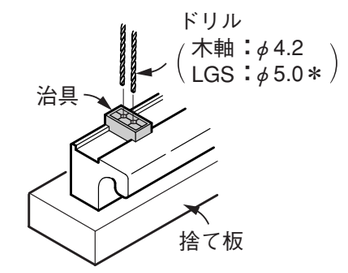




2 手すりを床面に置き、取り付けねじ位置に付属の治具を合わせ、下穴（貫通）をあける。

注意

- **付属の治具をしっかり押さえて使用してください。**
  しっかり押えないと上下2か所の下穴を垂直にあけられないおそれがあります。
- **必ず手すりの下に捨て板を置いてください。**
  床を傷つけるおそれがあります。



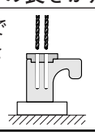
＊LGSの場合、治具穴（φ4.2）をドリルでφ5に広げてください。

警告

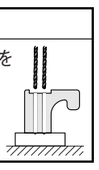
必ず守る	**必ず専用治具を使用し、下穴をあける** 手すり本体が破損したり、転落・転倒事故の原因となります。

ドリルの長さが足りない場合

①ドリルが届くところまで治具を使用し、下穴をあける。



②治具を外し、下穴を貫通させる。



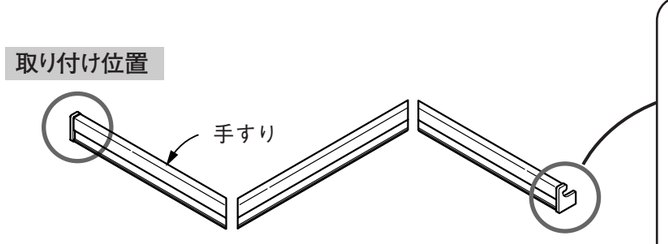
4 エンドキャップの取り付け

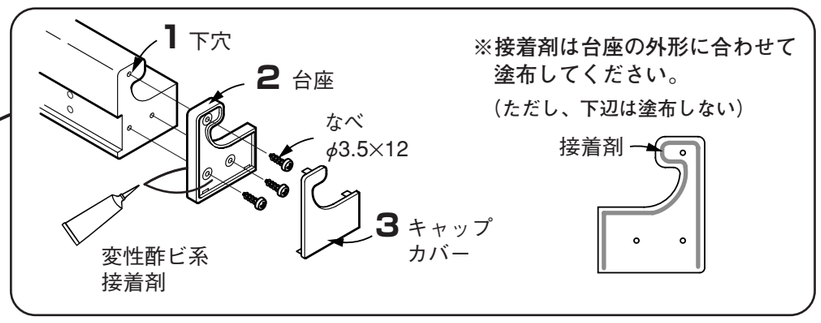
1 台座のねじ位置に合わせ、手すりの木口に下穴（φ2.5×深さ12mm）をあける。

2 台座に専用の変性酢ビ系接着剤を塗布し、ねじで取り付ける。

3 台座に専用の変性酢ビ系接着剤を塗布し、キャップカバーを取り付ける。

取り付け位置





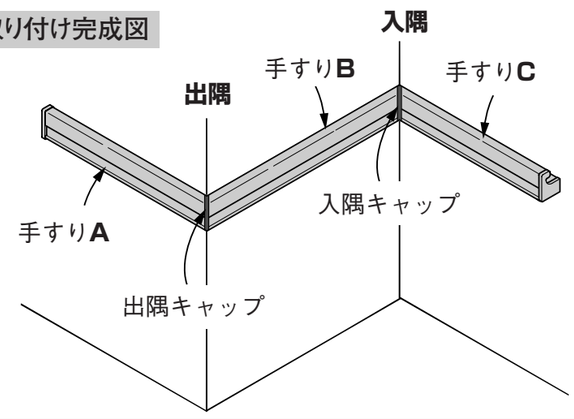
※接着剤は台座の外形に合わせて塗布してください。
（ただし、下辺は塗布しない）

5 手すりの取り付け

警告

必ず守る	**手すりの運搬・取り付け時は必ず2人作業で行う** 手すりの落下などによりけがをするおそれがあります。
	必ず専用のねじで施工する 手すりの落下などによりけがをするおそれがあります。

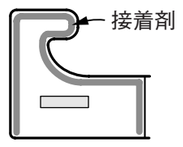
取り付け完成図

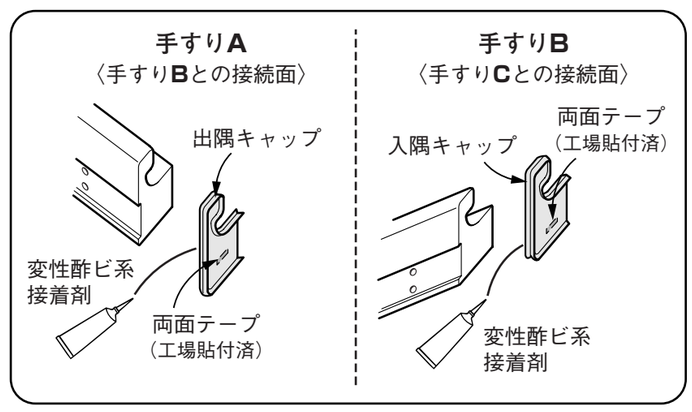


1 手すり**A**・**B**に出隅・入隅キャップを取り付ける。

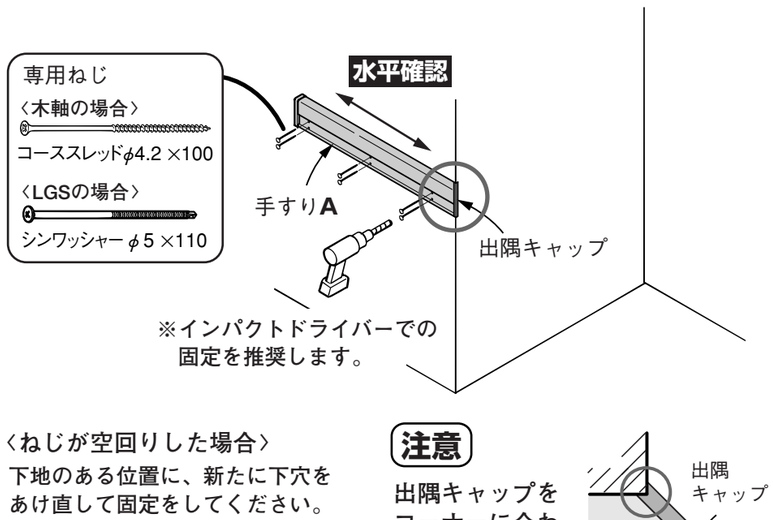
専用の変性酢ビ系接着剤を塗布し、両面テープの離型紙をはがして、手すりの木口に貼る。

※接着剤はキャップの外形に合わせて塗布してください。
（ただし、下辺は塗布しない）





2 レベル出しをしながら、手すり**A**を取り付ける。

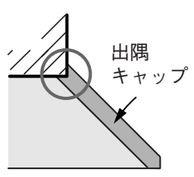


〈ねじが空回りした場合〉

下地のある位置に、新たに下穴をあけ直して固定をしてください。
（空回りをした穴を再使用しないでください。）

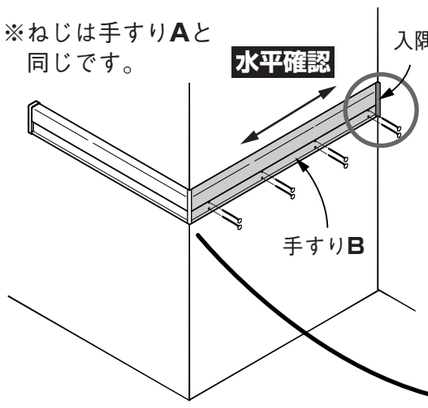
注意

出隅キャップをコーナーに合わせて納めてください。



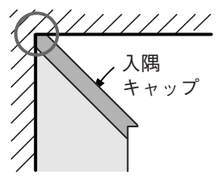
3 レベル出しをしながら、手すり**B**を取り付ける。

※ねじは手すり**A**と同じです。

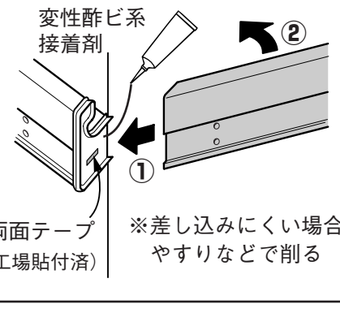


注意

入隅キャップをコーナーに合わせて納めてください。

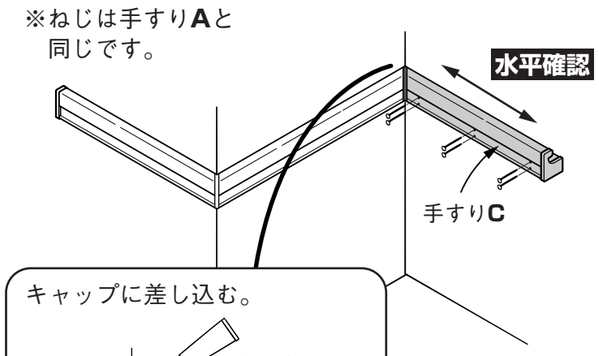


キャップに斜めから差し込み、壁に付ける。

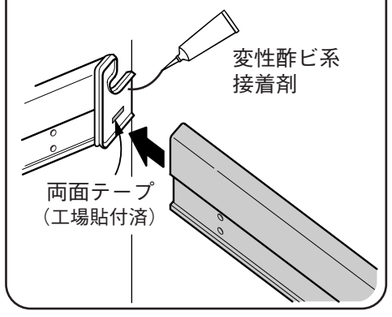


4 レベル出しをしながら、手すり**C**を取り付ける。

※ねじは手すり**A**と同じです。

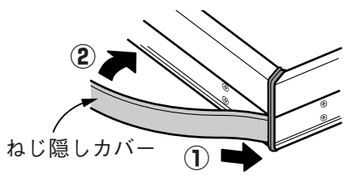


キャップに差し込む。

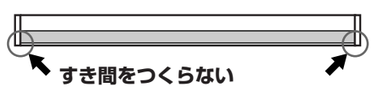


6 ねじ隠しカバーの取り付け

手すりの溝部に取り付ける。

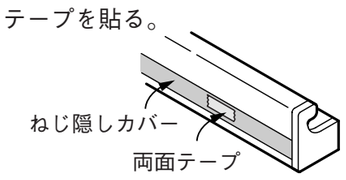


※すき間ができないよう、左右均等に取り付けてください。
温度変化によりカバーが伸縮する場合があります。

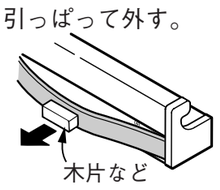


外しかた

1 ねじ隠しカバーに両面テープを貼る。



2 木片などを貼り、引っぱって外す。



施工後の確認

チェック項目	チェック
ねじ隠しカバーやエンドキャップを取り付けていますか？	
がたつきやゆがみはないですか？	
表面に傷や汚れなどはないですか？	

パナソニック株式会社　内装システムビジネスユニット　〒571-8686 大阪府門真市大字門真1048番地
© Panasonic Corporation 2012
D1210-2022